



桑山市長

◆ 新洋学資料館で継続的なイベント開催を

山本 新洋学資料館のホールで、人が集まるようなイベントや展示を継続的に開ければと思います。洋学は日本の近代化を考えるうえで大変重要ですし、それに付随したテーマというものはたくさんあります。イベントは必ずしも洋学がメインでなくてもいいのです。歴史研究者などに観光を兼ねて来てもらえたらと思います。私の友人や知り合った人はみんな「津山って、いいところですね」と言ってくれます。彼らは、出雲街道を歩いていますので「そこに新洋学資料館ができて、こんな展示がある、今度こんなイベントがある」と話せば、勧めやすいですね。

◆ 楽しめる・何かを発見できる・自由な空間として親しめるように

小野 新洋学資料館が、今年秋には姿を整え、来年春には内部の収蔵品を公開されるそうです。

ロマンチックな外観でアカデミックな学問への入り口への期待を感じさせる洋風の本館、五角形の連続性から生まれる求心力と発信力を併せ持つ常設展示室、薬草やハーブなどの緑と水がバランスよく配置された憩いの庭などが整備されると伺っています。また、企画展示室には重要文化財も展示でき、今まで津山では見ることのできなかった貴重な資料を拝観できるそうです。

子どもから大人まで誰でも「楽しめる」「糧となる何かを発見できる」そして「垣根の無い自由な空間として親しめる」ような、そのような新館ができることを期待しています。作州に住んでいる方、郷里を離れてご活躍の方、また津山に興味を持たれる他県の方々に、ぜひ、足をお運びいただきたいですね。

「津山洋学資料館友の会」では、ホールでミニコンサートやオランダ料理の食事会、映画会、地域ぐるみのバリアフリーガーデンパーティーなどを企画したいですね。洋学の時代のロシアと「うたごえ喫茶」で歌われるロシア民謡とを結びつけた「歴史の話&歌う会」を催しても面白いかと思えます。

東西の出雲街道とお城山、吉井川、

昔ながらの拠点と人の流れが充実すれば、おのずとまちに活気が出てくるのではないのでしょうか。

周辺の久米川・加茂川などの河畔の桜並木なども、鶴山に劣らぬ美しい光景です。住んでいる人、地域の人が誇りに思えるような歴史や風物を、継承していく心を大切にしながらはいけないと思います。

今も息づいている津山の洋学を市民みんなの手で、より活力ある魅力あるものにしていきたいです。

市長 山本先生からは、郷里を離れている方としてのふるさとを大切に思う心情を語っていただきました。小野さんには、洋学を切り口として、熱っぽく「ふるさとをこうしたい」という思いを語っていただきました。本当に嬉しく思います。ご期待に反しないように、新洋学資料館をつくることを契機に歴史と伝統のあるこのまちを一層大切にしていきたいという思いでいっぱいです。まずは、多くの方に新洋学資料館に来ていただきたいと思えますので、そのための応援団として小野さんにはこれからもご活躍いただきたいと思えます。また、市民の長い間の願望がかなうという喜びを共有して、まちづくり

新館の完成を市民とともに喜び、ともに「良いまちづくり」をしていきたい

にも活かしていきたい。そしてまた、城東地区と城西地区には出雲街道という共通項もありますので、関連するまちづくりを行い、津山市全体として「いいまちだな」と一層言われるように努めたいと思っています。

市制施行80周年の今年、津山にとってますますすばらしい年を迎えたなとつくづく思います。

本日は、本当にありがとうございました。

【3ページの写真の中の掛け軸について】

自ら晒わふ白頭半死おきなの翁

手に椒酒しやうしゆを把りて春風に対す

世人識しらず心中しんちゆうの事

謾まりて道みちふ長生ちやうせいは化工くわくわうを賊そくふと

①椒酒しやうしゆ＝山椒さんしやうの実と柏かしわの葉を入れた酒。元日に服用して長寿を祈願する。化工くわくわう＝造物主。創造神。

箕作阮甫みまき げんぷが死去の前年に当たる文久2年(1862)に、正月の書き初めとして書いたもの。自らを「白頭半死翁」とあざけりながらも、年頭に長寿を願う心の奥には「少しでも長く研究を続けたい」という向学心がわき上がっていたと思われま